

# 食や運動健康効果探る

## 弘大と森永製菓 研究講座を開設

弘前大学と森永製菓(東京都、森信也社長COO)は、共同研究講座「ウェルネスフードイノベーション」を14日、弘前大学医学部で設置開式を行った。弘前大が中心となつて取り組む大規模住民健康増進プロジェクト「(岩木健診)で集めている膨大な健康ビッグデータを活用しながら、ポリフェノール共同研究講座を開設した福田学長(左から6人目)、渡部執行役員(同7人目)ら関係者



と長寿遺伝子の発現の因果関係など、食や運動が健康に与える影響について研究を進め、製品化なども目指す。同社は2030年にウェルネスカンパニーへ生まれ変わることをビジョンに掲げ、食や運動が心と体に及ぼす影響について研究を進めてきた。これまでも、ポリフェノール一種であるピセアタンノールを含むパッションフルーツ種子抽出物が、ヒトにおいてサーチュイン遺伝子(長寿遺伝子)の発現を増加させることを世界で初めて確認するなど成果を上げている。今年度は岩木健診にも参画しており、今後は弘前大と同研究講座で、健診参加者の血液における長寿遺伝子の状態や、ピセアタンノ

ールやコラーゲンなどの食や運動が与える影響、長寿遺伝子が与える効果などについて検証していく。弘前大の福田眞作学長は「岩木健診のデータを活用することで、森永製菓が目指すウェルネスの向上、(コーポレートメッセージ)「おいしくたのしくすこやかに」の具現化につながっていくのでは。成果が非常に楽しみ」と期待する。

同社の渡部宏之執行役員研究所長も「私たちだけ研究していたサーチュイン遺伝子の効果についてより幅広いデータで検証でき、ピセアタンノールがサーチュイン遺伝子を介するんなら効果・機能に影響を与えていることが分かることなどを期待している。結果を基に商品・サービスに生かせる状態に向けて進めていきたい」と意欲を語った。(西尾瑛)